

中国黒龍江省チチハル市産業調査

ERINA調査研究部研究員 朱永浩

2009年8月2日～15日の間、チチハル市地域産業研究訪問団の一員として中国黒龍江省チチハル市を訪問した。今回の視察団（団長：一橋大学大学院商学研究科の関満博教授）は、一橋大学、島根県立大学、専修大学、ERINAの中国地域経済・産業研究の専門家・関係者10余名からなっ

ている。

今回の視察は黒龍江省政府外事弁公室とチチハル市政府外事僑務弁公室のご協力¹を得て、行政機関（商務局、招商局、発展改革委員会、経済委員会、農業委員会）、大学・研究機関（チチハル大学、チチハル市社会科学院）、現地

¹ 一人一人の名前は挙げられないが、とりわけチチハル市政府外事僑務弁公室の辛華氏と曹万嵐氏には、移動、調査手配とアテンドを対応して頂き、この場を借りて深甚な感謝を申し上げます。

写真1 建設ラッシュに沸き立っているチチハル



写真2 綏満高速道路（G10）の建設現場



企業（商業、機械、食品・飲料・日用品関連企業）を対象とする現地調査を通じて、チチハル市の産業発展状況及び日本を含めた北東アジア諸国との協力可能性を図ることを目的としている。

建設ラッシュに沸き立つ東北辺境都市

中国東北辺境の最大都市・チチハルは、7つの区と8つの県から構成され、全体の面積が4万2,400平方キロメートル、人口569万人（うち市内人口は143万人）を抱える黒龍江省第二位の都市である。日本ではまだ馴染みの薄い名前だが、現地のダフール語の「辺境」または「天然牧場」に由来するという。

かつての社会主義計画経済期には、大型国有企業の集積地としてチチハル市経済は成長してきた。しかし改革開放期以降、市場経済への移行という変化にうまく適応できず、同市は沿海部に比べて大きく出遅れた。近年、経済改革の深化に伴い、チチハル経済は伝統産業（工作機械、鉄道貨物車両製造、軍需産業、化学工業）に加え、绿色食品の生産も好調に推移している。

さらに、黒龍江省経済振興プランの目玉とも言える「哈

写真3 チチハル第二機床集团有限公司の大型旋盤とプレス設備工場



大齊工業走廊建設区（ハルビン・大慶・チチハル工業回廊）」の具現化により、チチハルは同省経済発展の重要都市として注目されつつある。好調な経済を反映して、高層ビルの建築工事（写真1）、高速道路（写真2）といった社会インフラの建設ラッシュに沸いている。

企業形態の多様化が進む工業都市

チチハル市は、計画経済期において国内の重要な機械・軍需・化学工業の集積地だったが、現在もその工業基盤が色濃く残っている。全国に名を知られる大型国有企業として、中国第一重型機械集団（原子力発電設備の生産経験を持つ国内最大規模の機械設備メーカー）、東北特鋼集団北滿特殊鋼工場（鉄鋼メーカー）、チチハル軌道交通裝備有限公司（鉄道貨物車両製造メーカー）、齊重數控裝備股份有限公司とチチハル第二機床集团有限公司（工作機械メーカー）などが挙げられる。

今回の視察では、国有企業のチチハル第二機床集团有限公司（写真3）のほか、輸出急増で注目されるチチハル市精鑄良鑄有限公司（鉄道用鑄造部品メーカー）のような民営企業数社も訪問した。近年における国有企業の再編と民営化及び非国有セクターの育成によって、多種多様な企業形態が形成されつつあることを実感した。

大きな可能性を秘める農業・農産品加工業

チチハルの土地は世界三大黒土帯の一つで、郊外を流れる「嫩江」は中国国内で汚染されていない数少ない河川の一つである。澄んだ空気、良質の土壌と綺麗な水を有するチチハルは、绿色食品産業を生産する理想の土地とされている。

チチハル市の耕地は18万ヘクタールを超え、年間食糧生産高が500万トンにのぼる。また、同市の草原面積は55万

写真4 甘南県興十四村の展示ホール



ヘクタール、家畜飼育量は800万頭に達している。さらに、15カ所の「特産之郷」（国家認定の「特産の里」で、日本の「一村一品運動」に相当する）が存在している。

今回視察した黒龍江省農業観光モデル地区の「甘南県興十四村」（写真4）、製酒メーカーの「北大倉集団」（写真5）、緑色食品メーカーの「龍江県興旺米業」、製乳メーカーの「光明松鶴乳品」等を通じて、農業・畜産業、農業観光及び農

写真5 北大倉集団のプレゼンテーション



産品加工業を地域産業振興の基幹的な部分にしていくチチハル市は大きなポテンシャルを持っていると認識させられた。

なお、今回の産業調査の詳細については、チチハル市産業の発展に向けた現状と課題ならびに今後の可能性を分析し、2010年の夏をめどに書籍にまとめる予定である。